

## 組織繊維化の分子基盤と薬物治療

### Molecular basis of fibrosis and its therapy

野瀬 清<sup>1</sup>, 高原 照美<sup>2</sup>(<sup>1</sup>昭和大薬,<sup>2</sup>富山医薬大医)

各種臓器の繊維化は、感染、慢性疾患および薬物処理に伴って発症し、一般に慢性炎症に伴う炎症反応の後期反応と考えられる。多くの場合、病因はほとんど明らかにされておらず、有効な予防法、治療法が確立されていないことから、治療が困難な疾患の一つとなっている。最近になって繊維化の少なくとも一部には、サイトカインおよび活性酸素が関与することが示唆されてきた。また、臓器におけるコラーゲン、MMPなどの細胞外基質蛋白質の合成・分解のアンバランスが発症の直接原因と考えられ、進展は非可逆的な場合が多い。本シンポジウムでは、肺繊維症をはじめ、肝、腎における繊維症の発症に関わると考えられるサイトカイン、活性酸素およびコラーゲンの高次構造に関わる分子シャペロンの役割について話題を提供して頂き、繊維症の薬物治療の可能性について議論したい。